

当代外语
研究论丛
FOREIGN
LANGUAGES
STUDIES
语言学研究系列

（日文版）
认知语言学视角下日语拟声
拟态词的语义分析研究

陈 帅◎著



認知言語学的アプローチによる
日本語オノマトペの意味分析

 上海交通大学出版社
SHANGHAI JIAO TONG UNIVERSITY PRESS

(日文版)

认知语言学视角下日语拟声 拟态词的语义分析研究

陈 帅◎著



認知言語学的アプローチによる
日本語オノマト

内容提要

本书为“当代外语研究论丛”之一,主要以日语中的 CVQCVri 型拟声拟态语为研究对象,对此类拟声拟态语的语义扩张从认知语言学的观点进行了分析。本书主要以日语语言学,特别是日语语文学、词汇学、认知语言学的学习者、研究者为对象。

图书在版编目(CIP)数据

认知语言学视角下日语拟声拟态的语义分析研究 / 陈帅著.
—上海:上海交通大学出版社,2018
(当代外语研究论丛)
ISBN 978-7-313-18653-9

I. ①认… II. ①陈… III. ①日语-象声词-语义分析
IV. ①H364.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2017)第 329186 号

认知语言学视角下日语拟声拟态词的语义分析研究 (日文版)

著 者: 陈 帅	地 址: 上海市番禺路 951 号
出版发行: 上海交通大学出版社	电 话: 021-64071208
邮政编码: 200030	
出 版 人: 谈 毅	经 销: 全国新华书店
印 刷: 当纳利(上海)信息技术有限公司	印 张: 11.5
开 本: 710mm×1000mm 1/16	
字 数: 188 千字	印 次: 2018 年 1 月第 1 次印刷
版 次: 2018 年 1 月第 1 版	
书 号: ISBN 978-7-313-18653-9/H	
定 价: 68.00 元	

版权所有 侵权必究

告 读 者: 如发现本书有印装质量问题请与印刷厂质量科联系
联系电话: 021-31011198

序

陳帥さんの博士論文が、このような形で刊行されることを心より嬉しく思う。

陳さんは、宮城教育大学大学院で修士課程を修了する直前に、東日本大震災で被災している。日本で研究を続けることを断念するという選択肢もあったであろうに、名古屋大学大学院の博士後期課程に進学し、粘り強く研究に取り組んだ。その成果が博士論文として実を結び、今日の出版に至ったとことを考えると、殊の外喜びが大きい。

本書は、認知言語学の意味観に立ち、現代日本語のオノマトペ5語「こっ तरी」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」を対象として、実際の使用例をもとに意味分析を行ない、現代日本語におけるオノマトペの意味拡張を考察したものである。

日本語はオノマトペが豊富な言語とされ、日本語の語彙におけるオノマトペの重要性の高さは広く認識されている。その一方、オノマトペは、形態と意味の間に有契性があることから、一般語彙とは異なる特殊な語群とされてきた。また、オノマトペは五感に根ざすものであるため、その意味の転用は主に共感覚比喩の枠組みにおいて研究されてきた。しかしながら、本書の考察対象である5語は、感覚を表すだけでなく、感情や性格といった抽象的なことを表す語としても使用される。また、現行の辞典類には記述されていないような用法での使用も見られる。本書は、日本語の語彙の中で重要な位置を占めながら、特殊な語群とされてきたオノマトペを

対象として多義語分析を行い、非慣習的な用法も含めた意味のネットワークを記述することを試みたものである。各語の意味拡張が比喩を基盤としていることを明らかにするとともに、感覚間の転用を共感覚比喩の観点からも捉え直し、共感覚比喩の基盤と方向性についても論じている。

本書は、「こってり」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」を対象とし、それぞれ多義語としての意味を分析・記述し、意味のネットワークを明らかにしている。その意味拡張は、比喩の観点からは、メタファーとメトニミーといった比喩を基盤として成立していると説明されるが、感覚間の転用については、共感覚、つまり、複数の感覚による同時体験が転用の強固な基盤であるとしている。さらに、われわれの感覚器官の機能の制約から身体的な同時体験の可否及び一般性が決まり、それが感覚間の転用に制約を与えていることを述べている。一方で、共感覚比喩の基盤は共感覚だけではなく、共感覚比喩の柔軟性はわれわれの「類似性を見出す」という柔軟な認知能力が関与していると結論づけている。

従来のオノマトペの研究では、意味については音象徴的な意味や感覚間の転用の方向性のみ焦点が当てられ、本書のように個々の語の意味が詳細に分析されていない。本書は、日本語母語話者の感覚に根付き、意味の分析・記述が容易でない言語表現であるオノマトペを対象として、実例を丁寧に観察し、非慣習的な用法も取り込んだ形でその意味を記述しているという点で、現代日本語のオノマトペの意味研究として貢献している。また、多義語の意味の記述にあたって非慣習的な用法を意味のネットワークに明確に位置づけている点、共感覚比喩の再考を通してわれわれの言語使用がわれわれの身体的経験を基盤にしていることを検証し、感覚間の転用の制約と柔軟性を論じている点でも注目すべきである。

本書で論じているオノマトペの意味拡張は、実例を丹念に観察することにより導き出されたものであり、実証されているわけではない。別の分析者が、別のアプローチで論じれば、別の結果が導き出される可能性もある。その意味で、本書の主張に批判がないわけではない。しかし、そのような批判は、オノマトペの意味拡張の一端を明らかにしたという本書の価値を否定するものではない。

陳帥さんが今後より広い範囲のオノマトペの意味研究に取り組むことを期待し、その研究がさらに発展することを願う。

名古屋大学大学院准教授

鷺見 幸美

前言

本书内容为以笔者博士论文为基础略加修改并归纳的成果。本书通过大量的实例收集,以五感(听觉,嗅觉,味觉,触觉,视觉)相关的日语拟声拟态词为对象,从认知语言学的视角进行了语义结构以及语义扩张的分析。本书选取了现代日语中与五感相关的「CVQCVri」型的拟声拟态词「こってり」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」为主要考察对象,并将五个词语作为多义词,进行多义词的语义分析,明确其语义的扩张网,在此基础上还对共感觉比喻进行了重新考察。既往的关于日语拟声拟态词语义的研究大多聚焦在音象征方面的意义以及在共感觉比喻范畴内的语义转用,没有像本书选取个别词汇进行详细的语义分析。另外,本书以以日语为母语的日本人的语感为重要依据之一,分析记述了各种非习惯性用法,以期对现代日语拟声拟态词的语义分析有所启发和贡献。本书主要适用于从事认知语言学研究,特别是对语义分析、共感觉比喻有兴趣的人士。笔者真诚期待各位的高见与指正。

认知语言学本身是一门非常重视认知主体与外在环境关系的学问,是把外在环境世界中心里,身体、物理的各种心内体验以及人类的各种活动在认知这个范畴内将语言作为焦点进行阐明的。而作为本书研究对象的日语拟声拟态词本身就反映了人与外界的相互作用,是基于五感感觉以及人的身体而成立的。所以,此研究在认知语言学的范畴内进行考察再合适不过。

本书第1章为绪论,阐述研究的对象和目的以及背景。第2章主要通过对先行研究的概观明确考察对象的所处地位。首先确认了日语拟声拟态词的定义和分类,特别是「CVQCVri」型的拟声拟态词在音韵、形态以及统语结构上的特征。结果显示,本书的考察对象中既有典型的拟声拟态词,也有可以看做一般词

汇的边缘拟声拟态词。尤其在统语结构方面,通过对「オノマトペ+スル」动词的分类以及形成原因的分析,确认了本书考察对象作为动词时的语义。本书在第2章中还对通常意义上所讲的共感觉现象重新进行了定义。阐明了在既往的语言学定义的共感觉比喻中,实际上含有并非共感觉的情形。本书为了区别不同的情形,只把基于共感觉现象的情形称为转用,其他的称为扩张。本书第3章介绍了本书的研究过程中主要依据的认知语言学的理论基础。通过对这些理论基础的再次归纳和总结,明确了本书研究的立场。

本书第4章和第5章是以实例为基础分析的章节。两章中的分析对象分别为具有反义关系的反义词组和具有近义关系的近义词组,如此选择,旨在更加完善地分析单个词汇的语义。第4章中的分析对象为「こってり」「あっさり」,第5章的分析对象为「しっとり」「さっぱり」「すっきり」。在分析过程中,首先认定了每个词汇作为多义词的多个个别词义,并认定其中一义为典型性词义。通过各个词义的确立明确了各个词义之间的关系,同时反映出各个词义的稳定度,从而明示了整体的语义网。在此之后还对五感中各个感觉之间的转用进行了分析,从而发现其中有不合既往所说的共感觉比喻的反例的存在,而且还指出即使是符合共感觉比喻的转用在实际应用中并不多见的事实。最后分别确认了「こってり」「あっさり」的反义关系,以及「しっとり」「さっぱり」「すっきり」两两存在的近义关系并明示了其所依据的经验基础。在第4章和第5章分析的基础上,第6章选取了互为近义关系的「あっさり」「さっぱり」和「さっぱり」「すっきり」进行了近义词分析。

通过第4章、第5章以及第6章的个别分析,本书第7章以日语拟声拟态词全体为对象,对日语拟声拟态词的语义扩张进行了整体考察。依据考察得出以下结论。首先,日语拟声拟态词的语义扩张可以分为五感感觉之间的扩张和五感感觉之外的扩张。再次,不论是五感感觉之间,还是五感感觉之外的扩张都是以基本的比喻为基础,即隐喻和换喻。五感感觉之外的语义扩张同一般词汇相同,就是非常纯粹的以基本比喻中的隐喻和换喻为基础的。而五感感觉之内的语义扩张,除了以基本的比喻为基础的语义扩张外,还有以共感觉为基础的扩张,此类扩张即符合本书中重新定义的共感觉现象,可以称之为符合共感觉比喻的转用,以共感觉现象为基础的转用基本上是以换喻为基础的。而不符合单方向性假说的扩张都不是以共感觉现象为基础的,而是以一般的隐喻为基础,也就是同一般词汇的扩张相同。最后,本书通过对共感觉比喻的重新考察,验证了我们语言的使用是以人的身体体验为基础的,另外也论述了各感觉之间转用的制约

性和柔软性。

本书所得出的关于日语拟声拟态词语义扩张的结论,虽然是通过分析所收集的大量实例而得出的结论,但本研究并非实证研究。不同的研究者采用不同的研究方法完全可能得出不同的结论。笔者期待相关研究者的指摘和批评,以更加明确日语拟声拟态词语义扩张的机制。

＜本書における表記法＞

- (1) 先行研究を直接引用する場合、その引用部分を「」で括って示す。
- (2) 先行研究、辞典の意味記述の引用に施した下線は、特に断らない限り引用者によるものである。
- (3) 引用文中、筆者によって省略した箇所は、(前略)、(中略)、(後略)で示す。
- (4) 例文の冒頭に示される「？」は、非文ではないが容認されにくいことを表す。
- (5) 例文中の分析対象語には、実線を施し、太字で示す。比較対象を分析対象語のすぐ後ろの()に示す。また、分析対象語以外に注目すべき箇所には波線を施す。
- (6) 引用例の出典は例文の後の()内に示す。インターネットの検索エンジンから得た実例の場合、例文の後にURLを記す。また、例文の後に出典が示されていないものは筆者による作例、ないしは、筆者が実例を簡素化したものである。なお、筆者は日本語母語話者ではないため、各例文は、日本語母語話者によるネイティブチェックを受けたうえで論文に掲載した。
- (7) 例文番号は、各章ごとの通し番号を付す。
- (8) 図表番号は、各章ごとの通し番号を付す。
- (9) 注は、各ページ末に挙げる。なお、注の番号は、全章を通じての通し番号である。
- (10) 意味に関わる特性は、<>で括って示す。

目次

第1章 序論	1
1.1 はじめに	1
1.2 本書の対象と目的	2
1.3 使用するコーパスについて	7
1.4 本書の構成	7
第2章 オノマトペに関する先行研究	9
2.1 はじめに	9
2.2 オノマトペの定義と分類	9
2.3 オノマトペの音韻・形態と統語的特徴	13
2.4 オノマトペの多義性と共感覚比喩	19
2.5 本章のまとめ	28
第3章 理論的背景	30
3.1 はじめに	30
3.2 認知言語学の意味観	30
3.3 その他の関連用語	34
3.4 多義語分析の方法	35
3.5 本章のまとめ	43

第4章 「こってり」と「あっさり」	44
4.1 はじめに	44
4.2 分析の前に	45
4.3 「こってり」	48
4.4 「あっさり」	62
4.5 本章のまとめ	81
第5章 「しっとり」「さっぱり」「すっきり」	85
5.1 はじめに	85
5.2 「しっとり」	86
5.3 「さっぱり」	102
5.4 「すっきり」	120
5.5 本章のまとめ	134
第6章 オノマトペの意味拡張	141
6.1 はじめに	141
6.2 感覚以外の意味拡張	141
6.3 感覚内の転用	144
6.4 共感覚比喻再考	147
6.5 本章のまとめ	152
第7章 結論	154
7.1 本書のまとめ	154
7.2 今後の課題	157
参考文献	158
索引	166
謝辞	168

第1章 序論

1.1 はじめに

オノマトペ^①を持つ言語は日本語だけではないが、日本語は、オノマトペを豊富に持つ言語の一つとして知られている。飯島(2004:24)も「この種の言葉に頼らずには、日本人の会話そのものが成り立たない」とオノマトペの重要性について述べている。また、日本語のオノマトペは、日本人独特の感性に訴えるものであり、外国人には理解が難しい。

言語は一般的に、その音と意味の結びつきが恣意的であるのに対して、オノマトペの音と意味の関係は恣意的ではなく、ある程度合理的な結びつきがある(金田一,1978;田守・スコウラップ,1999など)。また、Kita(1997)によると、一般語彙は、思考・経験が意味的部分に組成分解される「分析的次元」(analytic dimension)と呼ばれる客観的次元に属しているのに対し、オノマトペは、言語情報が感覚・感動・感情的情報と直接接触する「感情・イメージ的次元」(affecto-imagistic dimension)と呼ばれる次元に属している。これらのことから、オノマトペは、一般語彙とは異なる特殊な語群とされている。また、日本語話者はオノマトペ語彙と一般語彙を比較的簡単に区別することができる(田守・スコウラップ,1999:5)。

① オノマトペという語の由来であるギリシア語の *onomatopoeia* は主に音声の模倣表現を指す。しかし、日本語研究では、泉(1976)以降、「オノマトペ」が「擬音・擬態語」や「音象徴語」と同義の総称として定着しており、日本語の「オノマトペ」には、必ずしも音を伴わない様態や心情を表す語も含まれている。本書は、総称としての「オノマトペ」という用語を用いている。

近年、オノマトペの多義性と意味拡張が注目されている(Hasada, 2001; 井上, 2013; Akita, 2010, 2013; 浜野, 2014; 游, 2014など)。一般語彙にも五感に関わるものはあるが、日本語のオノマトペは、元々五感に根ざしたものであり、複数の感覚にまたがるもの(がたがた、ごろごろ、がんがんだ)が豊富である。

このように、オノマトペは、複数の感覚にまたがり、関連性を持っているため、多義語^①として捉えられるが、特殊な語群とされることから、その意味の拡張は、一般語彙の意味拡張と異なるだろうと考えられる。一般語彙の場合、多義語の意味のネットワーク(多義構造)を明らかにする研究は少なくないが、オノマトペの場合、本格的に扱ったものは、十分にあるとは言えない^②。本書は、現代日本語におけるオノマトペを対象とし、一般語彙と同じように多義語分析を行い、その意味拡張を考察する。

1.2 本書の対象と目的

本書は、認知言語学の意味観に立ち、複数の感覚にまたがり、「こってり」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」という5つのオノマトペの意味を分析・記述することを通して、オノマトペの意味拡張を明らかにすることを主たる目的としている。

これらのオノマトペは、次のように用いられる。

- (1) フランス料理はこってりしていて胃にもたれるといったイメージが強いが、消費者のヘルシー志向に配慮し、無農薬の野菜をふんだんに使った料理を増やしている。(日経流通新聞 1996.03.05)

① 「多義語」(polysemic word)とは、同一の音形に、意味的に何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語を言う(国広, 1982:97)。

② 武藤(2003)は、五感に関わる形容詞(甘い、酸っぱい、渋い、辛い)、動詞(聞く、ふれる、におわせるなど)の多義構造と意味間の転用を明らかにしたが、オノマトペについては、食に関するオノマトペを取り上げ、感覚間の転用にメトニミーが多く関わることを確認するにとどまり、各語の多義構造は明らかにされていない。

(2)暑いと食欲が落ち、そうめんやそばなどあっさりした食べ物ばかり口にしがちだ。肉や魚、野菜などが欠けると、エネルギー源となるたんぱく質の他、ビタミンB1など疲労回復に必要な栄養が不足し、だるさの原因ともなる。
(日経プラスワン2010.07.24)

(3)肌にハリと弾力を保たせるアンチエイジングクリーム。翌朝まで肌が乾かずしっとり。
(BCCWJ『an.an』マガジンハウス 2002)

(4)髪を切る間は鏡を見られなかったが、家で初めて鏡を見て、「さっぱりした姿に達成感があった」。前向きな気持ちが生まれた。
(中日新聞 2005.08.09)

(5)新都心の玄関口であるのを配慮、すぐ隣の新宿モード学園やペデストリアン・デッキと色調などを統一、すっきりした景観をつくり出した。
(毎日新聞 1990.10.29)

例(1)～(5)における「こってり」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」それぞれの語は、五感の中でも「味覚」「味覚」「触覚」「視覚」「視覚」を慣習的に表す。

日本語のオノマトペには、五感に関わるものが豊富に見られ、それらは一般的に単一の感覚に還元することができない。本書の考察対象であるこの5つの語は、上記の感覚だけではなく、五感内の他の感覚を表すことができ、複数の感覚にまたがるものである。例えば、次の例(6)～(10)における「こってり」「あっさり」「しっとり」「さっぱり」「すっきり」は、それぞれ「触覚」「嗅覚」「味覚」「聴覚」「嗅覚」を表している。

(6)野村院長によると、ひびやあかぎれの症状には、血行を改善するビタミンが入ったタイプがいいという。こってりとした肌触りのものが多く、手に傷がある時に塗ってもしみない。
(中日新聞 2013.02.02)

(7)宮城県丸森町の財団法人「阿武隈ライン保勝会」が24日から、町特産品でキク科の根菜ヤーコンを原料に開発した「ヤーコン焼酎もりもり」

を、町の「蔵の郷土館・斎理屋敷」で販売する。試飲では「あっさりとした香りで飲みやすい」と好評。(毎日新聞 2010.06.24)

(8)好評なのはケーキ。しっとりした味で、ほのかに甘い香りがする。一般的にケーキ(スポンジ)の原料となる小麦粉(薄力粉)と比べて、玄米粉はグルテン(たんぱく質)が少ない。(朝日新聞 2003.01.13)

(9)今度はアコースティックギターを練習したが、さっぱりした音色にリッチさや色気は感じられず、徐々に弾き語りから遠ざかっていった。(朝日新聞 2002.09.26)

(10)JR九州は3月1日、ICカード乗車券「SUGOCA(スゴカ)」のサービス開始1年を記念して、ペットボトル入りのオリジナル緑茶「すごか茶」を発売する。伊藤園が九州産の茶葉だけを使用し、「すっきりした香りと、ほのかな甘み」に仕上げた。(毎日新聞 2010.02.27)

上掲の例は、例(1)～(5)に比べ、日本語話者にとって、慣習的な用法とは言えない。辞典に記述されていないことから、それらの慣習性は低いと考えられ、従来の意味転用の考察においても十分に注目されていない。しかし、実例は存在しており、日本語話者にとって慣習的ではなくとも容易に理解できるものである。本書は、このような非慣習的な用法も含めて考察していく。

オノマトペの意味転用は、主に共感覚比喩の枠組みにおいて考察されてきた。その転用が一方向的であることが指摘され、共感覚比喩の「一方向性仮説」と呼ばれる。例えば、「あっさり」は、本来例(2)のように「味覚」に用いられるが、例(7)の「あっさりとした香り」は「嗅覚」に用いられている。「味覚」と「嗅覚」の共感覚が起こり、「味覚」から「嗅覚」に転用されている。この「味覚→嗅覚」の転用は、共感覚比喩の「一方向性仮説」に従う。一方、「こったり」は、本来例(1)のように「味覚」に用いられるが、例(6)の「こったりした肌触り」は「触覚」に用いられている。だが、「味覚」と「触覚」の共感覚は起こらないとされており、「味覚→触覚」の転用は、「一方向性仮説」に従わない。

Williams(1976)、楠見(1988)、山梨(1988)、国広(1989)などは、一部の例外を認めつつ、基本的に「一方向性仮説」を認めるが、実際の言語使用においては、「一方向性仮説」に従わない反例が多く見られる。小森(1993)は、共感覚表現の共感覚と原感覚の組み合わせの方向性は決して完全なものではなく、それぞれの表現は方向性や慣用性の点で柔軟さを持っているとしている。その他、瀬戸(2003)は日本語の形容詞、武藤(2003)は日本語オノマトペの「一方向性仮説」の反例を挙げている。特に、武藤(2003)は、食に関するオノマトペを対象にした共感覚体系を提案し、「一方向性仮説」が放棄されなければならないとしている。

このように異なる見解が見られることから、感覚間の転用の方向性については、再考する必要があると考えられる。本書は、考察対象の意味分析を通して、この問題の解明を試みる。

また、「一方向性仮説」に従う転用の中にも、慣習的な転用と非慣習的な転用が見られる。

- (11) 白や紫や紅など、日なたでは鮮烈な色が、夕景のにび色をまぶされて、しっとりと落ち着いた色あいを見せている。

(BCCWJ『笑い絵』出久根達郎 文芸春秋 1995)

- (12) 高山市西之一色町の観光施設「飛騨開運乃森」でコアジサイが満開になり、淡い青色の小さな花がしっとりとした芳香を放っている。

(中日新聞フォーラムの始まり2007.06.21)

例(11)の「しっとり」のように、「視覚」への転用は慣習的であるのに対して、例(12)の「しっとり」のように、「嗅覚」への転用は非慣習的であると言える。「一方向性仮説」に従わない転用の実例の存在、及び「一方向性仮説」では成立するはずの転用であっても実例がほとんどないことは先行研究においてもしばしば指摘されているが、このように、「一方向性仮説」に従う転用の中に、慣習性の程度が異なるものが存在することは、注目されていない。その違いが何によるものであるのかを明確にする必要があると考えられる。

以上、考察対象である5つの語が五感に用いられる場合を見てきたが、こ